

企業動向

αシクロデキストリン「CAVAMAX」

腸内有用菌増やす機能を確認

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

難消化性の水溶性食物繊維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロケムは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、ブライオティクスとして機能性研究に力を入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボに機能する可能性を確認している。

さらに、αCDには腸内細菌の一種で、糖代謝を改善する働きを持つプロボテラ菌を増やす作用もあるという。このため、αCDは糖代謝改善にも機能する可能性が示されている。

このほか、同社はαCDについて、機能性表示食品の機能性関与成分としての利用を目指しており、現在、独自に取りまとめた研究レビューと自社最終商品で、消費者庁に申請書類を提出している。想定する機能性表示は「食後血糖値の上昇抑制」で、1日摂取目安量は5gとした。同社では、受理実績を作ることで、届出サポートにも乗り出す考え。

このほか、同社はαCDについて、機能性表示食品の機能性関与成分としての利用を目指しており、現在、独自に取りまとめた研究レビューと自社最終商品で、消費者庁に申請書類を提出している。想定する機能性表示は「食後血糖値の上昇抑制」で、1日摂取目安量は5gとした。同社では、受理実績を作ることで、届出サポートにも乗り出す考え。

このほか、同社はαCDについて、機能性表示食品の機能性関与成分としての利用を目指しており、現在、独自に取りまとめた研究レビューと自社最終商品で、消費者庁に申請書類を提出している。想定する機能性表示は「食後血糖値の上昇抑制」で、1日摂取目安量は5gとした。同社では、受理実績を作ることで、届出サポートにも乗り出す考え。

このほか、同社はαCDについて、機能性表示食品の機能性関与成分としての利用を目指しており、現在、独自に取りまとめた研究レビューと自社最終商品で、消費者庁に申請書類を提出している。想定する機能性表示は「食後血糖値の上昇抑制」で、1日摂取目安量は5gとした。同社では、受理実績を作ることで、届出サポートにも乗り出す考え。